

**製品名: NDUFV2 ウサギポリクローナル抗体****カタログ番号: APRab14520**

研究使用のみ

**概要**

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12 ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

**応用**

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:20000-1:40000
分子量	27kDa

**抗原情報**

遺伝子名	NDUFV2
別名	NDUFV2; NADH dehydrogenase [ubiquinone] flavoprotein 2; mitochondrial; NADH-ubiquinone oxidoreductase 24 kDa subunit
遺伝子 ID	4729.0
SwissProt ID	P19404
免疫原	抗血清はヒト NDUFV2 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 20-69

**背景**

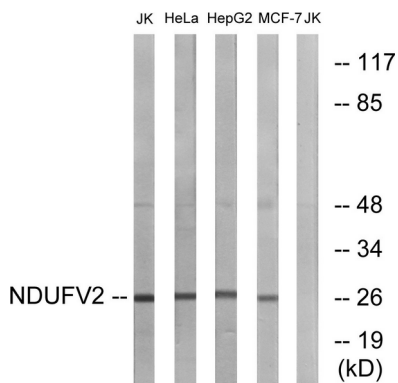
ミトコンドリア呼吸鎖の NADH-ユビキノン酸化還元酵素複合体（複合体 I）は、NADH からユビキノンへの電子伝達を触媒し、少な

くとも 43 個のサブユニットから構成されています。この複合体はミトコンドリア内膜に局在しています。この遺伝子は複合体 I の 24 kDa サブユニットをコードし、電子伝達に関与しています。この遺伝子の変異はパーキンソン病、双極性障害、統合失調症に関与しており、早期発症型肥大型心筋症および脳症の 1 症例にも変異が認められています。この遺伝子座の非転写疑似遺伝子は、染色体 19 にあります。[RefSeq 提供、2009 年 10 月],触媒活性:NADH + 受容体 = NAD(+) + 還元受容体。触媒活性:NADH + ユビキノ = NAD(+) + ユビキノール。補因子:1 2Fe-2S クラスターに結合します。機能:ミトコンドリア膜呼吸鎖 NADH 脱水素酵素 (複合体 I) の中核サブユニットで、触媒に必要な最小限のアセンブリに属すると考えられています。複合体 I は、NADH から呼吸鎖への電子の移動で機能します。酵素の直接の電子受容体はユビキノンであると考えられています。類似性:複合体 I 24 kDa サブユニットファミリーに属します。サブユニット:複合体 I は、45 の異なるサブユニットで構成されています。これは酵素のフラビンタンパク質硫黄 (FP) フラグメントの成分です。

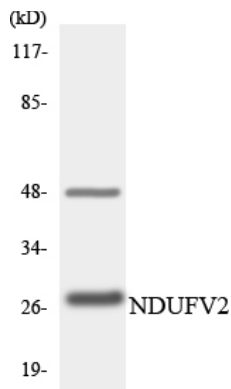
## 研究分野

酸化リン酸化、アルツハイマー病、パーキンソン病、ハンチントン病、

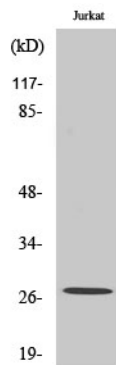
## 画像データ



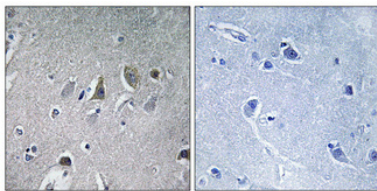
NDUFV2 抗体を用いた Jurkat 細胞、HeLa 細胞、HepG2 細胞、MCF-7 細胞のライセートのウェスタンブロット解析。右レーンは合成ペプチドでブロックされている。



NDUFV2 抗体を使用した K562 細胞の溶解物のウェスタンブロット分析。



#### NDUFV2 ポリクローナル抗体を用いた様々な細胞のウェスタンブロット解析



パラフィン包埋ヒト脳の免疫組織化学染色。抗体は 1:100 (4°C、一晩) に希釈した。抗原賦活化には、高圧高温トリス EDTA (pH8.0) を使用した。抗体から得られたネガティブコントロール (右) は、免疫原ペプチドで前処理した。